

おわりに

副校長 今嶋三郎

「子ども達が、主体的に生き生きと楽しい生活を送って欲しい、そういう子ども達を育てたい」という教師の願いが、平成7年度からの新しい研究テーマ『生活を楽しむ子』になった。

第15期・中央教育審議会第1次答申のキーワードは、「生きる力」と「ゆとり」である。ここで言う「生きる力」とは、資質や能力の面から言うと、より多くの生活体験・自然体験を基にした「主体的に判断し行動する力」「自律・協調・思いやり・感動などの豊かな人間性」「健康や体力」である。

本校が描く『生活を楽しむ子』は、自分自身が生活の主体者として自分なりの考えを持って活動する子であると考えている。そうであれば、現在の生活を子ども達が楽しみながら主体的に送っていくことが、将来の「生活を楽しむ力」を培うことになると考える。

このように考えると、本校のテーマは中央教育審議会第1次答申の内容と見事に符合しており、これからの教育の方向性を踏まえたものであると自負できるのではなかろうか。

さて、このテーマで実践を始めて2年目である。1年目は、テーマに関する理論構築、各学部毎の『生活を楽しむ子』を育てるためのテーマを設定し、授業実践を通しながら指導内容や指導の方向性などの検討に取り組んできた。2年目の本年度は、昨年の反省に立って、より確かな児童生徒の実態把握を基に一人ひとりにつけたい力を明確にし、今を楽しく主体的に生活するための題材選定をどうするか、教師の支援のあり方とタイミング等について研究を深めてきた。

その結果、小学部では教師の温かな支えと多くの援助を受けながら、のびのびと行動する中で友達とのかかわり方をゆっくりと身につけたり、さまざまなことに自分から興味を持ち、いくつかの選択肢から自分で選択し行動しようとする芽が育ってきた。

中学部では、自分なりのめあてを持って行動するよう教師が仕掛けることにより、例えば大山登山では頂上を目指すとか、8合目までは是非とも登りたい等、個々が目標を持って自分に応じたペースで挑戦し、達成感を味わい、生徒は大きな自信をつけた。

高等部になると卒業後の生活を意識し、「生きて働く力」を身に付けることをねらっている。具体的には、複数の学習内容から自分でしたいことを決め、学習を楽しみながら技能や態度を身につけていく「選択」の学習は、生徒には魅力あるものとなっており、積極的な取り組みが見られる。また、「生活一般」の学習でも、現実的な生活場面を視野に入れ生活の幅が広がる学習を構成し、達成感、成就感が味わえるよう指導を重ねてきた。

各学部で、発達や障害に応じた実践を展開してきたが、子ども達が今を楽しみながら、充実した学校生活を送るための力はまだまだ十分ではない。題材の選定、自らが選択し判断するための支援のあり方などについて、更に、実践的に検討し研究を深めなくてはならない。そのためにも、皆様の忌憚のないご批評やご指導を賜りたいと願うものである。

最後に、本研究をご指導頂いている田口久恵先生はじめ鳥取大学教育学部の先生方、並びに関係各位に厚く感謝の意を表するとともに、この研究がより深まり、実りのあるものとなるよう、引き続きご指導ご助言賜わるようお願いする次第である。